

- 1 I のグレブナー基底 G が極小ならば、そのときに限り、全ての $g \in G$ に対し $LC(g) = 1$ であり $LT(G)$ は単項式イデアル $\langle LT(I) \rangle$ の極小基底である

Proof. \Rightarrow を示す.

G は極小なので定義より、全ての $g \in G$ に対し $LC(g) = 1$.

次に $G' = LT(G)$ が極小であることを見る. 任意の $f \in I$ に対し $LC(LT(f)) = LC(f)$ より、 $g \in G$ に対し $LC(LT(g)) = LC(g) = 1$. これで極小イデアルの定義の (i) を満たすことが示せた.

ある $p' \in G'$ が $LT(p') \in \langle LT(G' - \{p'\}) \rangle$ を満たすとする. $LT(p')$ が $LT(G') - \{p'\}$ の線型結合で書け、 $LT(p')$ は単項式なので、ある $g' \in G' - \{p'\}$ と、ある単項式 $h_{g'} \in I$ により $LT(p') = h_{g'}LT(g')$ と書ける.

$g' = LT(g)$ なる g を用いて

$$q = p - h_{g'}g \in I$$

と置くと、右辺の減算により最高次の項が消えている. G がグレブナー基底であることから、除算アルゴリズムを用いて $q = \sum_{g \in G} q_g g$ と書けるが、 $LT(q) < LT(p)$ であり、除算アルゴリズムの性質より $q_p = 0$ となる.

以上より $q = p - h_{g'}g$ が $G - \{p\}$ の線型結合で書け、従って $p = q + h_{g'}g$ も同様となる. これより $p \in \langle G - \{p\} \rangle$ が示せた. これの対偶を取ることで、極小イデアルの定義の (ii) を満たすことが示せた.

\Leftarrow を示す.

証明の前半と同様、任意の $f \in I$ に対し $LC(f) = LC(LT(f))$ より、 $g \in G$ に対し $LC(g) = LC(LT(g)) = 1$.

ある $p \in G$ が $LT(p) \in \langle LT(G - \{p\}) \rangle$ を満たすとする.

$$LT(p) = LT(LT(p))$$

$$LT(G - \{p\}) = LT(LT(G - \{p\}))$$

より

$$LT(LT(p)) \in \langle LT(LT(G - \{p\})) \rangle$$

さらに $LT(G - \{p\}) = LT(G) - \{LT(p)\}$ より

$$LT(LT(p)) \in \langle LT(LT(G) - \{LT(p)\}) \rangle.$$

$p' = LT(p)$, $G' = LT(G)$ と置くと、「 $LT(p) \in \langle LT(G - \{p\}) \rangle$ 」ならば $LT(p') \in \langle LT(G' - \{p'\}) \rangle$ 」が言えたので、その対偶である「 $LT(p') \notin \langle LT(G' - \{p'\}) \rangle$ 」ならば $LT(p) \in \langle LT(G - \{p\}) \rangle$ 」が示せた. \square